

対話的・協働的な学びを通して多面的・多角的考察力を育成する授業実践

— 日本の農業と食料問題を中心に —

県立旭丘高等学校 遠藤 慎也

1 実践のねらい

本校の生徒の特徴として、学習指導要領の育成すべき資質・能力の「知識・技能」については高い評価生徒が多いものの、「思考力・判断力・表現力等」については、一面的な思考をする生徒も多く課題がある。自説の欠点や他説の利点なども考慮した形で考察できるようになれば、多面的・多角的な考察力が高まり、より適切な判断や表現ができるようになると思う。

この課題解決のために、「農業・食糧問題」をテーマとした探究学習を設定した。この学習の中でジグソー法を実践して、生徒の対話的・協働的な学びが促進されることを図った。また、生徒がより多面的・多角的に考察できることを企図して、SWOT分析とクロス分析の手法を取り入れた。

2 実践の概要

(1) 単元指導計画

科目名	政治・経済	学年・類型	3年・文系理系	単位数	2	
単元名	経済活動と福祉の向上 この単元は、「A 現代日本における政治・経済の諸課題」の「(1) 現代日本の政治・経済」に該当する。					
単元の評価規準						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
現在の日本経済の現状と課題について、理解している。		経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。		「経済活動と福祉の向上」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
次	授業のねらい・学習活動			重点項目 ※1		評価方法
	知	思	主			
1	ねらい「戦後の日本経済の流れと特徴を理解する」			●	●	ワークシートの記述 ロイロノート・スクール(株式会社 Loilo、以下「ロイロノート」と表記)の記述
	① 戦後の経済政策が、現代日本の経済的課題にどのような影響を与えたのかを理解する。 ② 中小企業が戦後の日本経済に果たした役割について考察する。					
2	ねらい「今後の望ましい日本の農業の在り方について構想する」				●	ワークシートの記述 ロイロノートの記述
	③ 日本の農業の現状を分析し、課題を説明する。 ④ 日本の農業を持続可能なものにするための方策を多面的・多角的に考察する。					
3	ねらい「日本の労働問題の解決策を構想する」			●	●	ワークシートの記述 ロイロノートの記述
	⑤ 日本の労働問題の現状や法制度について理解する。					

	⑥ 現代の労働問題の解決策を多面的・多角的に考察する。				
4	ねらい「持続可能な社会保障政策の在り方について構想する」	●	●		ワークシートの記述 ロイロノートの記述
	⑦ 日本の社会保障制度の現状と課題を理解する。 ⑧ 今後の日本の社会保障の在り方を多面的・多角的に考察する。				
5	ねらい「福祉の向上のために、日本の経済活動はどうあるべきか考察する」		○	○	ワークシートの記述
	⑨ これまでの学習を踏まえて、課題を設定し、自分の考えをまとめる。				
	定期考査	○	○		

※1 指導に生かす評価には「●」、評定に生かす評価には「○」

(2) 第5次の評価基準（ルーブリック）

	A	B	C
思考・判断・表現	経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして論理的に表現できている。	経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現できている。	経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現できていない。
主体的に学習に取り組む態度	自分の学習課題について見通しをもち、改善を図ることができている。	自分の学習課題について見通しをもつことができている。	自分の学習課題について見通しをもつことができていない。

(3) 定期考査（意見論述問題）の評価基準（ルーブリック）

	A	B	C
思考・判断・表現	多面的・多角的に考察しながら、根拠を明確にして自分の意見を説明できている。	多面的・多角的に自分の意見を説明できている。	多面的・多角的に自分の意見を説明できていない。

(4) 実践と成果（第5次）

ア 実践の具体的な内容

本実践では第2次以降、「SWOT分析・クロス分析をして社会課題の解決策を考える」という流れを繰り返し行っている。

単元指導計画第2次のワークシートは別添のとおり。

イ 実践の手だて

(ア) SWOT分析・クロス分析の実施

SWOT分析は、ある対象（個人、組織、プロジェクトなど）の現状を客観的に把握し、今後の戦略や行動計画を立てるためのフレームワークのことである。SWOTは以下の四つの要素の頭文字を取ったものである。

- ・ S (Strengths) 強み：自分や組織が得意とすること、他より優れている点
- ・ W (Weaknesses) 弱み：改善が必要な点、苦手なこと
- ・ O (Opportunities) 機会：外部環境にあるチャンスや有利な要因
- ・ T (Threats) 脅威：外部環境にあるリスクや障害となる要因

この四つの視点から情報を視覚的に整理することで、問題を構造的に理解することができたり、多面的・多角的思考を深めることができたりするようになると考えられている。

もう一方のクロス分析は、SWOT分析で洗い出した四つの要素を以下のように「掛け合わせて」、問題の具体的な解決策（戦略）を導き出す方法である。

- ・ S×O：強みを生かして機会をつかむ
- ・ W×O：弱みを補って機会を生かす
- ・ S×T：強みで脅威に対抗する
- ・ W×T：弱みと脅威をどう克服するか

クロス分析を行うことで、客観的な分析が可能になり、解決策を明確にしたり、網羅的にしたりすることができる。また、解決策が整理されることで実行の優先順位（S×O、W×O、S×T、W×Tのどれが大切か）を考えやすくなるので、最終的な自分の意見をまとめる助けにもなる（写真1）。

(イ) ジグソー法の実施

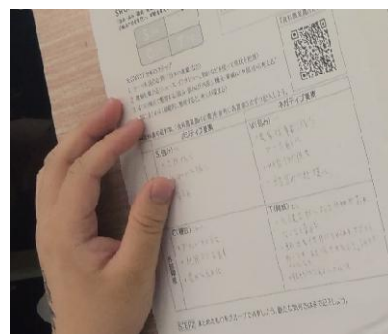
SWOT分析やクロス分析の四つの観点を一人でまとめるには時間がかかりかかる。また、一人で多様なアイデアを生み出すのも難しい。そこで、ジグソー法を取り入れることにした。これにより、作業時間の短縮を図りつつ、生徒同士がアイデアを共有し協議することができる考えた（写真2）。

ウ 実践の成果

SWOT分析・クロス分析による思考の構造化とグループワークにおけるジグソー法の取組を通して、生徒は自他の意見を比較・関連付けながら思考を整理する姿が見られるようになった。資料1によると、本単元前の9月と比較してA評価の生徒が大幅に増加し、C評価の生徒が減少した。また、C評価の生徒についても字数不足が7名、無回答が8名であり、内容面でC評価としたのは1名だけであった。

また、生徒Aの本単元前の記述（次頁資料2）は、公共の福祉の基本的な考え方は押さえているが、理由が示されておらず、論理性には課題がある。本単元後の記述（次頁資料3）は、理由も明示され、複数の視点から農業の在り方を考察できていた。また、既習事項（財政）と関連付けて書かれており、思考力を向上させていることが見取れた。

【写真1 SWOT分析の様子】



【写真2 ジグソー学習で情報共有】



【資料1 定期試験の意見論述問題の観点別評価（思考・判断・表現）結果の推移】

N=233	A	B	C
本単元終了時（11月末）	135（57.9%）	82（35.2%）	16（6.9%）
【参考】9月に別の単元で同一の基準で評価した際の評価	3（1.3%）	188（80.7%）	42（18.0%）
【参考】5月に別の単元で同一の基準で評価した際の評価	14（6.0%）	136（58.1%）	84（35.9%）

【資料2 生徒Aの年度当初の振り返りの記述】

問 個人の自由／政府の規制 ほどまで認められるべきか

答 公共の福祉に反し、人に危害が加わるならば、規制をかけるべき。そうでないものは、互いの利害が一致する妥協点を見つけ、そこで規制をつける。

【資料3 生徒Aの本単元のまとめの記述】

政府側としては財政状況から考えて、農業へ予算をかけるのは難しいが、日本の農業は技術的にも農業人口的にもお金をかけていけないといけないと思う。予算の制約と農業への投資の増加の間をうまくとってやっていくしかないのかなと思う。もっと農家も農業を面白い、仕事にしやすいようなものとして、我々若い世代も農業に親しめるように努力をしてみるのも一つだと思う。学校の先生兼農家など、農業を副業として行ったりしてみると子どもたちも親しみが持てると思う。グチャグチャな意見になってしまったが、みんながもっと農業を身近なものとして日々を暮らしてほしい。そうなれるよう、政府・自治体がうまく変えてほしい。

3 今後の課題

本単元では全ての時間にグループワークの機会を設けた。「発想が周りと違う人が一人いたので、周りにとってよい刺激になった。考えが深まった。」「グループワークだったおかげでいろいろな面から考えることができた。」「高校生になり、グループワークをすることが極端に減ったが、意見交換をすることの大切さを改めて感じられた。」など生徒からは肯定的な声が聞かれた。これらの結果から、グループワークの中に対話的・協働的な学びを取り入れたことで、生徒が一面的な思考に陥りがちであるという学習上の課題は一定程度改善され、多面的・多角的考察力は高まったと言える。ただし、意識しないと一面的な思考になってしまったり、批評家的な表現に終始してしまったりすることもある。継続的にこの取組を行い、生徒が多面的・多角的な考察力をさらに向上させ、より適切な判断や表現ができるようにしたい。

【参考文献】

- ・『(令和6年度)食料・農業・農村白書』(農林水産省、2025年5月30日公表)
- ・『高等学校政治・経済』(第一学習社、2025年)
- ・『政治・経済資料2025』(とうほう、2025年)